

まなびの広場  
稲進会  
教室通信



# 彩色いろいろ

## 「1015歳の男①」

「お前たちの時代が一番大変なのかもしれんなあ」

僕の目の前にいる老人がつぶやいた。この老人とは、1時間ほど前に出会った。僕は、大学受験のための夏期講習の授業が終わり、猛烈に照りつける太陽から逃れるためと、今日の講義の復習をするために、有名チェーン店のカフェに入った。荷物を空いている席に置き、アイスコーヒを注文しにレジに向かおうとすると、僕のシャツの裾が引っ張られた。「わしもアイスコーヒ」30cmはあろうかという白髪のひげをあごに蓄え、髪もひげと同じ色で肩まで伸びきっている老人が僕のシャツの裾を握っていた。「はぁ？」と僕は思わず言った。

「こう暑い時はアイスコーヒだ。早く買って来てくれ」

「アイスコーヒですね」何のためらいもなく発せられる老人の言葉の勢いに負けた僕はレジへと向かった。

「サンキュー」老人は、そう言ってレジから戻ってきた僕のトレイからアイスコーヒを取り、ガムシロップを3個注ぎ、かき混ぜ、一気に飲み干した。僕はただ呆然とその姿を見ていた。飲み干した老人は、「おかわり」そう言って氷だけが残ったグラスを僕に差し出した。「おかわり頼む」老人の満面の笑顔がグラスの向こうにあった。僕は自分のアイスコーヒに手をつけないうち、この日2度目のレジに向かうことになった。

「はぁ、うまかった。ごちそうさま」、2杯目のアイスコーヒを飲み干した老人はグラスをテーブルに置いた。「あのお、800円……」僕は、レジで受け取ったレシート2枚をテーブルに置いた。レシートを僕に突き返しながら老人は、「お金はない、この店に入る前に財布を落とした」悪びれる様子もなく言った。

「はぁ？……、じゃあこのアイスコーヒのお金はどうするんですか？」

「だから、ごちそうさまと言っただろ」

「いやいやいや、会ったばかりのあなたになんで僕がおこらなきゃならないんですか！」僕は強い口調で言った。

「まあ、落ち着け、ほら周りが気にしとるぞ」隣の席に座っていた女子高生のグループが、僕らの方を見ながらヒソヒソと話していた。

「よしわかった、アイスコーヒ代として、わしが一つタメになる話しをしてやろう」

「わかりました」僕は、そう言ったものの老人の話しに期待するでもなかった。ただ、もめるのも面倒だし、800円をあきらめるしかない若干あきらめ始めた中での言葉だった。

「わしの話しは、鉄板ネタばかりじゃ。その中でも、お前のためになるとっておきの話しをしてやろう。そうだな……」

老人は、視線を上げながら少し考えていた。

「わしは何歳に見えるかな？」しばらくして話しを切り出した。

「80歳くらいですか」僕は適当に答えた。

「大はずれだ。わしはな、今年の3月3日で1015歳になった」

「え～っ、1015！」僕は、初めて口をつけたアイスコーヒを吹き出した。

「まあ、一般的な人間の寿命の概念から考えれば、驚くのも無理はない。しかし、世の中はまだまだ知られていないこともあるんだ。わしの一族の平均寿命は2000歳だ。わしもまだ人生折り返し地点といったところだな」

「だめだこの人。もう800円はあきらめよう」僕はそう思いながら、テーブルの上を拭いた。

教室責任者 奥松亮二

※暑いさなか、奥松妄想話しにお付き合いいただきありがとうございます m(\_)\_m。最終的にはちょっとタメになる所に着地する予定です。全3回を予定しています。暇な時にでもお読みいただければ幸いです。

# 教室の風景

## “自分で行動できるもん！-2”

前回、自分の行動を時間に置き換えて、把握する能力「時間概念」についてお話をしました。日々のレッスンでも、時間を意識するということを行っていますが、今日は家庭でも出来る実践例をご紹介します。

ここで言う「時計」は、デジタルではなくアナログの針のついた時計です。

時計全体が見えるアナログ時計の方が子どもたちにとってわかりやすいのです。まず、「毎日決まった時間に行くこと」を時計を基準にして意識させていきます。

例えば、寝る時間が決まっているなら「〇〇時になったからお布団にいこうね」と時計のそばまで一緒に行き、時間を指さして読み上げます。楽しみにしているテレビ番組などもいいですね。「〇〇時になったから、ドラえもんみようね」など。この時、必ず時計の数字を指でさして時間の場所を教えます。こうすることで時計の読めない月齢のお子さんでも、数字を覚えていきます。

慣れてきたら、その決まった時間までにしなければならないことを意識させていきます。例えば、「〇〇時(時計のそばまで行き指をさす)になったらお布団に行くから、パジャマに着替えようね」と言葉かけをしてから着替えをさせます。テレビの例であれば「〇〇時になったらドラえもん始まるから、おもちゃを片付けようね」と一緒にお片づけをします。時計のそばまで行き一緒に指さしするのが重要ポイントです。こうした行為を繰り返し一緒に行います。予定通り出来たときは、必ず褒めてあげてください！大切です！

慣れてきたら、毎日決まってない事柄についても、行動させる前に必ず言葉かけと一緒に時計の指さしを行うようにします。例えば、急なお出かけがあったとして「〇〇時になったら今日はお出かけするからね。〇〇時までに着替えてね」と事前に伝えておきます。伝えるときは、簡潔にはっきりと、してほしいことを具体的に短く伝えてください！始めは少し手間かもしれませんが……。根気よく、繰り返すことが大切です！

繰り返し行うことで、子どもたちが自ら考えて行動できるようになります！！

この時間概念が確立していくにつれ、物事を順序立てて考えられるようになります。今までは言われなければ行動出来なかったことも、ひとつの作業にかかる時間と、次の作業にかかる時間を逆算して考えられるようになっていきます。「〇〇時からレゴだから、〇〇時までには『～を終わらせなきゃ』」や「日曜日は、朝『～をして』、お昼から『～しようかな』』というような大人顔負けの発言が出てくるようになります。

自分で考え行動していくことを幼い頃から身に付けていくことで、前向きかつ能動的に取り組むようになり、自分で出来た！という実感が得られます。その積み重ねが自信につながっていきます！

カギを握っているのは私たち大人の働きかけです。

時計が読めなくても、数字が読めなくても、大人の工夫一つで能動的に行動するきっかけを作ることができます。

インストラクター 宮崎 真樹子

## 今月の作品紹介



☆コマ☆  
二重の構造になっており、上部と下部が別々に回転するからくりコマです。色合いも素敵ですね。



☆タワー☆  
全長約1メートルの巨大なタワーです。土台を安定させるための工夫がされています。



☆動物たち☆  
2匹の足や顔などの組み方に変化をつけることで、似ているようで、よくみると印象が異なる動物になっています。